

資料編

- 千葉市の産業データ ■
- 千葉市の商業データ ■
- その他の参考データ ■

- 策定経過 ■
- 用語解説 ■

■千葉市の産業データ■

■市内総生産（生産規模・生産効率）

産業面の市内総生産（平成 20 年）については、比較している政令市の中で最下位、北九州市と同水準となっています。また、前年からの変化をみると、減少率は仙台市、名古屋市、京都市に次いで大きく、関東圏では最大となっています。

▼図表 1 平成 20 年市内総生産(名目)産業のみ／出典:大都市比較統計年表平成 21 年版 (大都市統計協議会)(単位:百万円)

	千葉市	札幌市	仙台市	さいたま市	川崎市	横浜市	名古屋市	京都市	大阪市	神戸市	広島市	北九州市	福岡市	政令市平均	東京都
産業(合計)	⑬ 3,143,389	⑤ 5,723,561	⑩ 3,578,376	⑪ 3,543,518	⑧ 4,902,293	③ 11,820,831	② 13,549,611	⑦ 5,394,510	① 19,777,501	⑥ 5,566,675	⑨ 4,872,683	⑫ 3,336,359	④ 6,395,303	5,089,145	87,983,900
	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
農林水産業	⑥ 6,383	⑩ 3,989	⑦ 5,545	⑨ 4,865	⑬ 1,973	① 9,891	① 3,260	② 9,526	⑬ 2,485	③ 8,487	⑤ 6,565	⑧ 5,192	④ 8,482	4,258	43,200
	0.20%	0.07%	0.15%	0.14%	0.04%	0.08%	0.02%	0.18%	0.01%	0.15%	0.13%	0.16%	0.13%	0.08%	0.05%
鉱業	⑨ 51	② 801	⑥ 223	-	-	⑨ 173	① 18	x ⑦ 222	⑧ 204	⑤ 365	④ 408	① 16,806	③ 702	1,110	30,200
	0.00%	0.01%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	-	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%	0.50%	0.01%	0.02%	0.03%
製造業	⑨ 421,195	⑫ 232,115	⑬ 218,206	⑩ 316,141	② 1,386,616	④ 1,201,791	③ 1,375,643	⑥ 991,808	① 1,925,046	⑤ 1,091,435	⑧ 601,971	⑦ 693,577	① 298,064	597,423	8,264,300
	13.40%	4.06%	6.10%	8.92%	28.29%	10.17%	10.15%	18.39%	9.73%	19.61%	12.35%	20.79%	4.66%	11.74%	9.39%
建設業	⑫ 175,080	③ 386,287	⑦ 213,133	⑩ 192,984	⑤ 239,674	① 794,597	-	x ⑥ 193,627	② 572,218	⑥ 231,520	① 192,313	⑨ 197,107	④ 275,085	203,535	4,442,200
	5.57%	6.75%	5.96%	5.45%	4.89%	6.72%	-	3.59%	2.89%	4.16%	3.95%	5.91%	4.30%	4.00%	5.05%
電気・ガス・水道業	④ 159,933	③ 101,235	⑩ 60,493	⑫ 64,921	⑥ 126,360	① 335,825	⑤ 126,688	⑩ 94,778	② 300,485	① 94,305	⑦ 122,113	⑧ 114,045	③ 163,065	103,569	1,006,100
	5.09%	1.77%	1.69%	1.83%	2.58%	2.84%	0.93%	1.76%	1.69%	2.51%	3.42%	2.51%	2.55%	2.04%	1.14%
卸売・小売業	⑫ 568,841	⑥ 1,172,465	⑦ 711,155	⑩ 693,448	① 678,596	④ 1,681,770	② 4,025,860	⑦ 971,498	① 6,369,897	⑧ 902,246	⑤ 1,252,793	③ 396,259	③ 1,968,865	1,188,539	18,604,100
	18.10%	20.48%	19.87%	19.57%	13.84%	14.23%	29.71%	18.01%	32.21%	16.21%	25.71%	11.88%	30.79%	23.35%	21.14%
金融・保険業	⑬ 152,448	④ 404,072	⑩ 235,526	⑨ 257,321	⑫ 153,287	② 569,583	③ 553,427	⑤ 373,590	① 1,210,449	⑥ 365,633	⑧ 331,210	① 177,031	⑦ 348,296	285,104	11,564,200
	4.85%	7.06%	6.58%	7.26%	3.13%	4.82%	4.08%	6.93%	6.12%	6.57%	6.80%	5.31%	5.45%	5.60%	13.14%
不動産業	⑫ 454,531	④ 1,021,823	① 618,459	⑨ 754,636	⑥ 978,419	① 2,585,995	③ 1,274,066	⑤ 978,836	② 1,819,831	⑧ 800,224	⑩ 622,629	③ 448,294	⑦ 804,749	731,250	11,940,100
	14.46%	17.85%	17.28%	21.30%	19.96%	21.88%	9.40%	18.15%	9.20%	14.38%	12.78%	13.44%	12.58%	14.37%	13.57%
運輸・通信業	⑫ 269,197	⑥ 483,986	⑧ 419,960	⑬ 234,285	① 364,273	③ 1,178,363	② 1,266,048	⑩ 369,211	① 1,727,348	④ 638,023	⑨ 380,801	⑦ 426,376	⑤ 500,063	458,774	5,662,100
	8.56%	8.46%	11.74%	6.61%	7.43%	9.97%	9.34%	6.84%	8.73%	11.46%	7.82%	12.78%	7.82%	9.01%	6.44%
サービス業	⑫ 935,730	⑤ 1,916,788	⑨ 1,095,676	⑩ 1,024,917	① 972,922	③ 3,462,998	② 4,311,397	⑦ 1,411,413	① 5,849,538	⑥ 1,434,437	⑧ 1,361,879	③ 861,672	④ 2,027,932	1,481,517	26,427,400
	29.77%	33.49%	30.62%	28.92%	19.85%	29.30%	31.82%	26.16%	29.58%	25.77%	27.95%	25.83%	31.71%	29.11%	30.04%

名古屋市の鉱業、建設業は非公開

▼図表 2 平成 19 年、20 年の市内総生産(名目)産業のみ比較

／出典:平成21年大都市比較統計調査(大都市統計協議会)

(単位:百万円)

都市名	平成 19 年度	平成 20 年度	変化率
千葉市	⑬ 3,244,656	⑬ 3,143,389	⑩ △3.12%
札幌市	⑤ 5,883,095	⑤ 5,723,561	⑥ △2.71%
仙台市	⑩ 3,759,769	⑩ 3,578,376	⑬ △4.82%
さいたま市	⑪ 3,621,938	⑪ 3,543,518	③ △2.17%
川崎市	⑨ 4,854,116	⑧ 4,902,293	① 0.99%
横浜市	③ 12,099,580	③ 11,820,831	⑤ △2.30%
名古屋市	② 14,154,586	② 13,549,611	⑫ △4.27%
京都市	⑦ 5,575,067	⑦ 5,394,510	① △3.24%
大阪市	① 20,338,126	① 19,777,501	⑦ △2.76%
神戸市	⑥ 5,733,164	⑥ 5,566,675	⑨ △2.90%
広島市	⑧ 4,962,996	⑨ 4,872,683	② △1.82%
北九州市	⑫ 3,434,369	⑫ 3,336,359	⑧ △2.85%
福岡市	④ 6,540,248	④ 6,395,303	④ △2.22%
政令市平均	7,246,285	7,046,508	△2.63%
東京都	92,609,900	87,983,900	△5.00%

人口一人あたりの市内総生産を見ると、千葉市は比較対象政令市の中で10番目となっていますが、関東圏で比較するとさいたま市、横浜市より大きくなっています。市内総生産の構成比をみると、サービス業(※)、卸・小売業、不動産業の割合が高くなっていますが、政令市平均や他市との比較では大きな差はありません。

(※) サービス業：ア その他の教育 イ 学術研究 ウ 医療、保健衛生、介護 エ その他の公共サービス業 オ 広告業 カ 業務用物品賃貸業 キ 自動車・機械修理業 ク その他の事業サービス業 ケ 娯楽業、映像製作業、映画館等 コ 放送業 サ 飲食店 シ 旅館 ス 洗濯、理容、浴場場 セ その他の個人サービス業

▼図表3 平成20年人口一人あたり市内総生産(名目)産業のみ

／出典：大都市比較統計年表平成21年版(大都市統計協議会)及び平成22年国勢調査(総務省)(単位：百万円)

	千葉市	札幌市	仙台市	さいたま市	川崎市	横浜市	名古屋	京都市	大阪市	神戸市	広島市	北九州市	福岡市	政令市平均	東京都
産業(合計)	⑩ 32,684.1	⑫ 29,916.0	⑧ 34,210.6	⑬ 28,987.4	⑦ 34,389.7	⑪ 32,045.4	② 59,850.9	⑤ 36,597.4	① 74,203.3	⑥ 36,048.9	④ 41,510.5	⑨ 34,154.4	③ 43,691.4	39,868.5	98,353.3
農林水産業	① 66.4	⑩ 26.1	⑦ 53.0	⑧ 39.8	⑪ 13.8	⑨ 26.8	⑫ 14.4	② 64.6	⑬ 9.3	⑤ 55.0	④ 55.9	⑥ 53.2	③ 57.9	41.2	48.3
鉱業	⑩ 0.5	③ 4.2	⑥ 2.1	-	⑧ 1.2	⑪ 0.0	-	x ⑦ 1.5	⑨ 0.8	⑤ 2.4	④ 3.5	① 172.0	② 4.8	14.9	33.8
製造業	⑧ 4,379.5	⑬ 1,213.0	⑪ 2,086.1	⑩ 2,586.2	① 9,727.1	⑨ 3,258.0	⑥ 6,076.4	⑤ 6,728.6	② 7,222.6	④ 7,068.0	⑦ 5,128.2	③ 7,100.2	⑫ 2,036.3	4,970.0	9,238.3
建設業	⑦ 1,820.4	④ 2,018.7	③ 2,037.6	⑩ 1,578.7	⑧ 1,681.3	① 2,154.1	-	x ⑫ 1,313.6	② 2,146.9	⑪ 1,499.3	⑨ 1,638.3	⑤ 2,017.8	⑥ 1,879.3	1,675.9	4,965.7
電気・ガス・水道業	① 1,662.9	⑬ 529.0	⑩ 578.3	⑫ 531.1	⑦ 886.4	⑥ 910.4	⑪ 559.6	⑧ 643.0	③ 1,127.4	⑨ 610.7	⑤ 1,040.3	② 1,167.5	④ 1,114.0	873.9	1,124.7
卸売・小売業	⑧ 5,914.7	⑦ 6,127.2	⑤ 6,798.9	⑩ 5,672.7	① 4,760.4	⑫ 4,559.2	② 17,782.9	⑥ 6,590.8	① 23,899.2	⑨ 5,842.8	④ 10,672.6	⑬ 4,056.5	③ 13,450.9	8,933.0	20,796.7
金融・保険業	① 1,585.1	⑧ 2,111.6	⑦ 2,251.7	⑨ 2,105.0	⑬ 1,075.3	⑫ 1,544.1	④ 2,444.6	③ 2,534.5	① 4,541.5	⑥ 2,367.8	② 2,821.6	⑩ 1,812.3	⑤ 2,379.5	2,275.0	12,927.1
不動産業	⑫ 4,726.1	⑨ 5,339.9	⑥ 5,912.7	⑤ 6,173.2	② 6,863.6	① 7,010.4	⑦ 5,627.8	④ 6,640.6	③ 6,827.8	⑪ 5,182.1	⑩ 5,304.2	⑬ 4,589.2	⑧ 5,497.9	5,822.7	13,347.3
運輸・通信業	⑨ 2,799.0	⑪ 2,529.3	⑤ 4,015.0	⑬ 1,916.5	⑩ 2,555.4	⑧ 3,194.5	② 5,592.3	⑫ 2,504.8	① 6,480.8	④ 4,131.7	⑦ 3,244.1	③ 4,364.8	⑥ 3,416.3	3,595.7	6,329.4
サービス業	⑦ 9,729.5	⑥ 10,016.9	⑤ 10,475.1	⑫ 8,384.2	⑬ 6,825.1	⑨ 9,387.9	② 19,044.2	⑧ 9,575.3	① 21,946.9	⑩ 9,289.2	④ 11,601.9	⑪ 8,821.0	③ 13,854.4	11,457.8	29,542.0

※名古屋市の鉱業・建設業は非公開

■事業所数・従業者数

□事業所数

事業所数は、堺市と同程度で、政令市中最低位となっています。関東圏で見ると川崎市、さいたま市の3/4程度、本市より人口の少ない新潟市、静岡市より少なくなっています。また、人口一人あたりの事業所数で比較すると、政令市中で下位に位置し、関東圏では、さいたま市よりやや少ないものの、川崎市、横浜市と同程度となっています。このように、特定の産業への偏りが比較的少なく、特定の業種が落ち込んで、市の税収全体に大きな影響を及ぼすことは、あまりないと言えます。

□従業者数

従業者数は、政令市中下位に位置しますが、静岡市、浜松市、新潟市と同程度となっています。また、人口一人あたりの従業者数で比較すると、政令市中下位に位置しますが、関東圏では川崎市、横浜市より多くなっています。

▼図表4 政令市、県内各市の事業所数、従業者数、事業所当たり従業者数

／出典：平成21年経済センサス基礎調査(事業所数、従業者数)、平成22年国勢調査(人口)(ともに総務省)

都市名	事業所数		従業者数		事業所あたり従業者数		人口一人あたり事業所数		人口一人あたり従業者数	
千葉市	⑮	30,806	⑬	426,497	①	13.84	⑦	320.3	⑮	4434.6
札幌市	⑤	80,313	④	928,113	⑨	11.56	⑬	419.7	⑬	4850.2
仙台市	⑨	48,667	⑨	581,955	⑥	11.96	⑫	465.3	④	5563.7
さいたま市	⑫	43,737	⑪	542,143	④	12.40	⑮	357.8	⑭	4434.9
川崎市	⑪	44,110	⑩	546,891	③	12.40	⑮	309.4	⑮	3836.5
横浜市	③	123,277	②	1,554,101	②	12.61	⑮	334.2	⑮	4213.1
静岡市	⑬	39,602	⑮	385,979	⑮	9.75	③	552.9	⑦	5389.3
浜松市	⑭	39,572	⑭	407,375	⑮	10.29	⑦	494.1	⑨	5086.7
新潟市	⑮	38,794	⑮	405,860	⑭	10.46	⑨	477.8	⑫	4998.9
名古屋市	②	132,199	③	1,534,264	⑧	11.61	②	583.9	②	6777.1
京都市	④	81,149	⑥	807,105	⑦	9.95	④	550.5	⑤	5475.6
大阪市	①	209,636	①	2,455,906	⑦	11.72	①	786.5	①	9214.3
堺市	⑦	31,953	⑮	336,167	⑬	10.52	⑭	379.5	⑦	3992.6
神戸市	⑦	73,635	⑦	787,893	⑪	10.70	⑩	476.8	⑧	5102.3

岡山市	⑬	33,649	⑬	358,991	⑫	10.67	⑪	474.2	⑩	5059.2
広島市	⑧	58,049	⑧	633,216	⑩	10.91	⑥	494.5	⑥	5394.4
北九州市	⑩	47,796	⑫	490,506	⑬	10.26	⑧	489.3	⑪	5021.3
福岡市	⑥	74,587	⑤	916,146	⑤	12.28	⑤	509.6	③	6258.9
政令市平均		68,418		783,284		11.45		479.1		5484.6
市川市		13,273		129,274		9.74		279.5		2722.0
船橋市		16,976		197,236		11.62		278.7		3238.3
柏市		12,468		146,518		11.75		308.6		3626.0
松戸市		14,331		139,844		9.76		295.7		2885.5

□一事業所当たりの従業者数

従業者数を事業所数で割った「一事業所当たりの従業者数」は、政令市中最多となっています。事業所数は少ないものの、一事業所当たりの従業者数は多いことが分かります。これを大分類の業種別にみると、製造業、情報通信業、金融業・保険業などが政令市平均との比較で多くなっています。

▼図表5 千葉市、政令市平均の事業所数、従業者数、事業所当たり従業者数
／出典：平成21年経済センサス基礎調査（総務省）

大分類	千葉市					政令市平均				
	事業所数	事業所割合	従業者数	従業者割合	従業者数/事業所数	事業所数	事業所割合	従業者数	従業者割合	従業者数/事業所数
農業、林業	45	0.1%	640	0.1%	14.22	77	0.1%	818	0.1%	10.66
漁業	1	0.0%	4	0.0%	4.00	6	0.0%	49	0.0%	8.30
鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.0%	1	0.0%	1.00	9	0.0%	89	0.0%	10.26
建設業	3,081	10.0%	30,820	7.2%	10.00	5,562	8.1%	52,488	6.7%	9.44
製造業	1,270	4.1%	27,640	6.5%	21.76	5,279	7.7%	84,299	10.8%	15.97
電気・ガス・熱供給・水道業	48	0.2%	2,880	0.7%	60.00	66	0.1%	4,413	0.6%	66.98
情報通信業	402	1.3%	11,823	2.8%	29.41	1,269	1.9%	28,119	3.6%	22.17
運輸業、郵便業	855	2.8%	26,971	6.3%	31.55	1,714	2.5%	47,054	6.0%	27.46
卸売業、小売業	8,041	26.1%	93,749	22.0%	11.66	18,128	26.5%	172,027	22.0%	9.49
金融業、保険業	604	2.0%	15,627	3.7%	25.87	1,121	1.6%	22,406	2.9%	19.99
不動産業、物品賃貸業	2,462	8.0%	12,267	2.9%	4.98	5,692	8.3%	24,768	3.2%	4.35
学術研究、専門・技術サービス業	1,452	4.7%	14,169	3.3%	9.76	3,566	5.2%	28,322	3.6%	7.94
宿泊業、飲食サービス業	3,842	12.5%	39,886	9.3%	10.38	9,564	14.0%	77,421	9.9%	8.10
生活関連サービス業、娯楽業	2,878	9.3%	18,904	4.4%	6.57	5,340	7.8%	32,610	4.2%	6.11
教育、学習支援業	1,333	4.3%	26,487	6.2%	19.87	2,239	3.3%	37,555	4.8%	16.78
医療、福祉	2,150	7.0%	40,138	9.4%	18.67	4,259	6.2%	72,819	9.3%	17.10
複合サービス業	132	0.4%	1,149	0.3%	8.70	256	0.4%	2,719	0.3%	10.63
サービス業(他に分類されないもの)	2,066	6.7%	47,508	11.2%	23.00	4,073	6.0%	74,872	9.6%	18.38
公務	143	0.5%	15,834	3.7%	110.73	200	0.3%	20,186	2.6%	101.18
合計	30,806	100.0%	426,497	100.0%	13.84	68,418	100.0%	783,033	100.0%	11.44

※塗りつぶしは政令市平均との比較で20%以上多いもの。

□事業所・従業者数の増減

本市は、東京への就業者を供給している都市である一方、周辺から従業者を集めている都市としての性格を持っています。特に従業者の構成としては市民向けのサービス産業である、卸売・小売業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育学習支援の4分類で全体の4割強を占めるなど、第三次産業の構成が大きくなっています。

(※)
平成13年～18年にかけての事業所数の増減をみると、減少率は全国平均並みで、川崎市、横浜市、福岡市と同程度となっています。従業者数の増減をみると減少率は全国平均を大きく上回り、堺市と同程度となっています。平成13年から18年にかけて事業所数、従業者数ともに大きく減少し、厳しい状況が続いています。

都市名	事業所				従業者			
	平成13年	平成18年	増減	増減率	平成13年	平成18年	増減	増減率
千葉市	30,097	28,174	△ 1,923	△ 6.4	392,307	370,035	△ 22,272	△ 5.7
札幌市	77,605	74,191	△ 3,414	△ 4.4	860,508	840,151	△ 20,357	△ 2.4
仙台市	48,728	46,959	△ 1,769	△ 3.6	554,534	536,681	△ 17,853	△ 3.2
さいたま市	41,983	40,403	△ 1,580	△ 3.8	465,486	478,262	12,776	2.7
川崎市	43,058	40,260	△ 2,798	△ 6.5	499,176	488,613	△ 10,563	△ 2.1
横浜市	117,000	109,632	△ 7,368	△ 6.3	1,347,684	1,352,216	4,532	0.3
静岡市	43,058	38,771	△ 4,287	△ 10.0	380,947	353,623	△ 27,324	△ 7.2
名古屋	141,085	130,013	△ 11,072	△ 7.8	1,455,469	1,449,671	△ 5,798	△ 0.4
京都市	87,283	78,333	△ 8,950	△ 10.3	754,316	734,400	△ 19,916	△ 2.6
大阪市	232,803	201,462	△ 31,341	△ 13.5	2,427,043	2,216,895	△ 210,148	△ 8.7
堺市	33,687	29,978	△ 3,709	△ 11.0	321,353	304,005	△ 17,348	△ 5.4
神戸市	75,750	72,788	△ 2,962	△ 3.9	737,868	718,492	△ 19,376	△ 2.6
広島市	55,830	55,195	△ 635	△ 1.1	574,602	575,795	1,193	0.2
北九州市	52,223	47,238	△ 4,985	△ 9.5	466,976	447,046	△ 19,930	△ 4.3
福岡市	75,136	70,359	△ 4,777	△ 6.4	814,260	811,303	△ 2,957	△ 0.4
政令市平均	64,185	59,098	△ 5,087	△ 5.8	669,585	648,733	△ 20,852	△ 2.3
市川市	13,816	12,456	△ 1,360	△ 9.8	123,824	115,219	△ 8,605	△ 6.9
船橋市	16,491	15,272	△ 1,219	△ 7.4	183,203	175,377	△ 7,826	△ 4.3
柏市	11,433	11,474	41	0.3	129,994	130,534	540	0.4
松戸市	14,562	13,196	△ 1,366	△ 9.4	131,925	124,072	△ 7,853	△ 6.0
東京特別区	587,024	557,107	△ 29,917	△ 5.1	7,134,941	7,213,675	78,734	1.1
全国	6,349,969	5,911,038	△ 438,931	△ 6.9	60,157,509	58,634,315	△ 1,523,194	△ 2.5

▲図表6 事業所・従業者数増減(平成13年ー平成18年)

／出典・政令市、東京特別区については平成18年事業所・企業統計調査(総務省)より

・県内各市については、平成13年及び平成18年事業所・企業統計調査(総務省)より

※平成21年経済センサスは調査方法が異なり、比較対象とすることができないため、平成13年及び平成18年の事業所企業統計調査を用いています。

■企業数

本市に本社、本店、本所を置く企業と単一事業所の合計である企業数を見ると、約10,000社となっている。これは政令市の中でも下位となっている。一方一企業当たりの常用雇用者数を見ると、政令市でもトップクラスとなっている。

都市名	企業数		常用雇用者数		企業あたり常用雇用者数	
千葉市	⑪	9,944	⑩	305,674	②	30.74
札幌市	④	29,163	⑤	520,069	⑭	17.83
仙台市	⑪	14,510	⑬	264,727	⑫	18.24
さいたま市	⑩	14,561	⑨	323,895	⑤	22.24
川崎市	⑨	16,996	⑪	278,255	⑪	16.37
横浜市	②	48,764	③	820,587	⑯	16.83
静岡市	⑮	11,214	⑮	204,469	⑬	18.23
浜松市	⑫	13,401	⑭	219,005	⑱	16.34
新潟市	⑯	10,106	⑮	214,553	⑥	21.23
名古屋市	③	45,680	②	1,093,320	④	23.93
京都市	⑤	23,498	⑥	490,844	⑧	20.89
大阪市	①	71,761	①	2,215,159	①	30.87
堺市	⑱	9,387	⑱	185,036	⑩	19.71
神戸市	⑦	20,756	⑦	428,087	⑨	20.62
岡山市	⑭	11,508	⑪	200,239	⑮	17.40
広島市	⑧	19,842	⑧	362,275	⑪	18.26
北九州市	⑬	13,104	⑫	276,437	⑦	21.10
福岡市	⑥	21,787	④	588,196	③	27.00
政令市平均		22,555		499,490		22.15

▲図表7 政令市、県内各市の企業数、常用雇用者数、企業あたり常用雇用者数／出典：平成21年経済センサス基礎調査(企業数、従業者数)(総務省)

■平成 17 年産業連関表

□特化係数*

▼図表 8 生産額特化係数と付加価値額特化係数（大分類）
／出典：平成 17 年千葉市産業連関表（千葉市）

部門名	生産額 特化係数	付加価値額 特化係数
01 農林水産業	0.144	0.146
02 鉱業	0.010	0.015
03 製造業	0.777	0.631
04 建設	1.060	1.053
05 電力・ガス・水道	1.839	1.498
06 商業	1.061	1.046
07 金融・保険	0.894	0.888
08 不動産	1.133	1.164
09 運輸	0.917	0.937
10 情報通信	0.938	0.974
11 公務	0.819	0.814
12 サービス	1.141	1.120
13 分類不明	1.093	1.825
第一次産業	0.144	0.146
第二次産業	0.823	0.729
第三次産業	1.131	1.104

▼図表 9 生産額特化係数と付加価値額特化係数
（35 分類のうち製造業に該当する部門）
／出典：平成 17 年千葉市産業連関表（千葉市）

部門名	生産額 特化係数	付加価値額 特化係数
03 飲食料品	1.091	0.686
04 繊維製品	0.060	0.078
05 パルプ・紙・木製品	0.160	0.163
06 化学製品	0.166	0.165
07 石油・石炭製品	0.252	0.270
08 窯業・土石製品	0.616	0.555
09 鉄鋼	5.467	4.889
10 非鉄金属	0.412	0.459
11 金属製品	0.621	0.506
12 一般機械	0.680	0.563
13 電気機械	0.078	0.080
14 情報・通信機器	0.136	0.119
15 電子部品	0.092	0.100
16 輸送機械	0.013	0.025
17 精密機械	0.404	0.341
18 その他の製造工業製品	0.248	0.291

□最終需要項目別生産誘発額

産業ごとの市内生産額が、どの最終需要項目からどれだけ誘発されたかを最終需要項目別生産誘発額でみると、産業の合計では、移輸出によって誘発された生産が最も大きく 3 兆 7,554 億円となっています。これは市内生産額の 56.0%を占めており、市内生産の半分以上が市外の需要により誘発されたといえます。

▼図表 10 最終需要項目別生産誘発額／出典：平成 17 年千葉市産業連関表（千葉市）（単位：百万円）

部門名	家計外消費 支出（列）	民間消費 支出	一般政府 消費支出	市内総固定 資本形成	在庫純増	移輸出計	最終需要 合計
1 農林水産業	15	463	31	91	15	12,472	13,086
2 鉱業	0	12	6	5	0	48	71
3 製造業	7,880	147,738	19,370	100,583	1,740	1,368,807	1,646,118
4 建設	147	8,685	2,006	440,547	8	10,731	462,124
5 電力・ガス・水道	1,547	66,648	36,855	8,774	79	228,302	342,204
6 商業	6,175	186,033	9,140	53,859	730	521,468	777,406
7 金融・保険	1,509	124,181	8,422	12,815	75	109,342	256,344
8 不動産	565	449,827	2,931	4,028	29	59,718	517,098
9 運輸	1,898	77,961	6,338	15,328	275	218,982	320,781
10 情報通信	1,426	66,239	8,046	26,116	△ 8	195,229	297,047
11 公務	78	7,032	204,091	1,073	3	5,326	217,603
12 サービス	49,486	404,230	294,170	53,419	127	830,070	1,631,502
13 分類不明	272	5,652	1,555	3,759	11	18,649	29,897
14 本社部門	464	7,421	2,668	4,273	16	176,275	191,116
全産業計	71,461	1,552,120	595,628	724,671	3,098	3,755,419	6,702,397

※生産誘発額とは、ある産業に生じた最終需要を賄うために、各産業で直接・間接に誘発された生産額を言う。

□産業別移輸出入

市外経済との取引を最終需要額でみると、移輸出は2兆9,006億円、移輸入は2兆9,183億円で177億円の移輸入超過となっています。産業別の取引状況をみると、移輸出が移輸入を上回っているのは「サービス」「商業」「電力・ガス・水道」「不動産」「情報通信」の5部門となっています。これらの部門は、他地域と比較して、千葉市で生産及び取引することが優位にあることを示しています。

▼図表 11 産業別移輸出入額及び移輸出入率／出典：平成 17 年千葉市産業連関表(千葉市)

(単位：億円、%)

部門名	生産額 (A)	市内需要 (B)	移輸出計 (C)	移輸入計 (D)	C-D	移輸出率 C/A (E)	移輸入率 D/B (F)	市内 自給率 100-(F)
1 農林水産業	131	1,258	114	1,242	△ 1,128	87.4	98.7	1.3
2 鉱業	1	798	0	797	△ 797	0.0	99.9	0.1
3 製造業	16,461	17,616	11,473	12,628	△ 1,155	69.7	71.7	28.3
4 建設	4,621	4,621	0	0	0	0.0	0.0	100.0
5 電力・ガス・水道	3,422	2,028	1,398	3	1,394	40.8	0.2	99.8
6 商業	7,774	6,356	4,460	3,043	1,418	57.4	47.9	52.1
7 金融・保険	2,563	2,844	231	511	△ 280	9.0	18.0	82.0
8 不動産	5,171	5,102	204	135	69	3.9	2.7	97.3
9 運輸	3,208	3,879	1,611	2,282	△ 671	50.2	58.8	41.2
10 情報通信	2,970	2,957	1,556	1,542	14	52.4	52.2	47.8
11 公務	2,176	2,176	0	0	0	0.0	0.0	100.0
12 サービス	16,315	14,056	6,401	4,142	2,259	39.2	29.5	70.5
13 分類不明	299	402	0	103	△ 103	0.0	25.5	74.5
14 本社部門	1,911	3,109	1,558	2,756	△ 1,198	81.5	88.6	11.4
全産業計	67,024	67,201	29,006	29,183	△ 177	43.3	43.4	56.6

■開廃業率

全産業の事業所の開廃業率(平成 13 年から 18 年)を比較すると、開業率、廃業率ともに中位に位置しています。このことから市内の産業は、他政令市と比較してプレイヤーの入れ替えが活発に行われている状況です。

▼図表 12 市内開廃業率／平成13年、18年事業所企業統計調査(総務省)

	H13 事業所数 (a)	新設事業所数 H13-18(b)	廃業事業所数 H13-18(c)	開業率 (b) / 5/(a)	廃業率 (c) / 5/(a)
千葉市	29,290	7,940	9,283	5.42% ⑦	6.34% ⑥
札幌市	76,083	23,674	26,825	6.22% ③	7.05% ⑭
仙台市	47,537	14,857	16,768	6.25% ②	7.05% ⑭
さいたま市	41,021	10,985	12,458	5.36% ⑧	6.07% ④
東京都区部	577,545	163,794	200,006	5.67% ⑥	6.93% ⑪
横浜市	114,563	30,270	34,989	5.28% ⑨	6.11% ⑤
川崎市	42,023	10,429	12,146	4.96% ⑪	5.78% ③
静岡市	42,388	7,865	12,216	3.71% ⑩	5.76% ②
名古屋市	139,155	34,767	45,785	5.00% ⑩	6.58% ⑨
京都市	85,756	18,012	24,341	4.20% ⑮	5.68% ①
大阪市	230,805	55,851	81,278	4.84% ⑬	7.04% ⑬
堺市	33,035	8,061	11,073	4.88% ⑫	6.70% ⑩
神戸市	74,140	23,507	25,999	6.34% ①	7.01% ⑫
広島市	54,537	16,287	17,554	5.97% ⑤	6.44% ⑧
北九州市	51,050	11,804	16,388	4.62% ⑭	6.42% ⑦
福岡市	73,723	22,881	26,351	6.21% ④	7.15% ⑮
全国	6,138,180	1,358,485	1,743,583	4.43%	5.68%

■製造業の事業所数、従業者数等

製造業の事業所数、従業者数（平成 21 年）を比較すると千葉市は全政令市中の下位になっていますが、一事業所当たりの製造品出荷額及び従業員一人当たりの製造品出荷額でみると全政令市でも最上位となります。

このことから、千葉市は製造業の規模は大きくないものの、一事業所、従業員一人当たりの生産効率は他政令市と比較して高くなっています。

▼図表 13 製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等、一事業所当たり製造品出荷額及び
従業員一人当たり製造品出荷額／出典：平成21年大都市比較統計調査（大都市統計協議会）

都 市	総 数									
	事業所数 (カ所)	順位	従業者数 (人)	順位	製 造 品 出荷額等 (百万円)	順位	一事業所当 たり製造品 出荷額 (百万円)	順位	従業員一人 当たり製造 品出荷額 (百万円)	順位
千葉市	518	⑱	21,154	⑰	1,074,897	⑫	2,075	②	50.8	③
札幌市	1,020	⑭	27,818	⑮	478,380	⑰	469	⑱	17.2	⑱
仙台市	574	⑰	17,825	⑱	498,168	⑱	868	⑩	27.9	⑬
さいたま市	1,117	⑬	28,324	⑭	728,987	⑮	653	⑭	25.7	⑮
川崎市	1,539	⑨	53,182	⑦	3,473,586	②	2,257	①	65.3	①
横浜市	3,001	③	103,383	③	3,288,715	③	1,096	⑦	31.8	⑧
新潟市	1,194	⑪	37,778	⑫	937,550	⑬	785	⑫	24.8	⑰
静岡市	1,690	⑦	47,007	⑪	1,542,664	⑪	913	⑨	32.8	⑦
浜松市	2,445	⑤	77,661	④	2,098,101	⑧	858	⑪	27.0	⑭
名古屋市	5,169	②	110,492	②	3,167,885	④	613	⑮	28.7	⑪
京都市	2,890	④	66,554	⑥	2,105,712	⑦	729	⑬	31.6	⑨
大阪市	7,340	①	132,987	①	3,747,543	①	511	⑰	28.2	⑫
堺市	1,644	⑧	49,947	⑩	2,645,259	⑥	1,609	④	53.0	②
神戸市	1,998	⑥	71,263	⑤	2,840,164	⑤	1,422	⑤	39.9	④
岡山市	899	⑯	29,040	⑬	881,741	⑭	981	⑧	30.4	⑩
広島市	1,373	⑩	50,603	⑨	1,868,263	⑩	1,361	⑥	36.9	⑥
北九州市	1,166	⑫	52,362	⑧	1,957,233	⑨	1,679	③	37.4	⑤
福岡市	948	⑮	21,790	⑯	551,660	⑯	582	⑯	25.3	⑯
政令市平均	2,000		54,334		1,822,867		966		31	
東京都区部	13,135		191,928		3,709,714		282		19	

▼図表 14 千葉市内の産業中分類別事業所数の推移
／出典：平成 22(2010)年工業統計調査結果速報（千葉市）

区分	H21	H22		対前年度 増減
			構成比	
食料品	84	77	16.3%	△ 7
食料・たばこ	4	4	0.8%	0
繊維	20	15	3.2%	△ 5
木材・木製品	7	6	1.3%	△ 1
家具・装備品	8	8	1.7%	0
パルプ・紙	10	10	2.1%	0
印刷	58	51	10.8%	△ 7
化学	14	14	3.0%	0
石油・石炭	2	1	0.2%	△ 1
プラスチック	18	17	3.6%	△ 1
ゴム	6	6	1.3%	0
なめし皮	1	1	0.2%	0
窯業・土石	27	24	5.1%	△ 3
鉄鋼	27	24	5.1%	△ 3
非鉄	9	8	1.7%	△ 1
金属製品	77	72	15.3%	△ 5
汎用機械	25	21	4.5%	△ 4
生産用機械	41	40	8.5%	△ 1
業務用機械	14	10	2.1%	△ 4
電子・デバイス	7	6	1.3%	△ 1
電気機械	16	15	3.2%	△ 1
情報通信機械	4	4	0.8%	0
輸送用機械	13	11	2.3%	△ 2
その他	26	26	5.5%	0
合計	518	471	100.0%	△ 47

▼図表 15 千葉市内の産業中分類別従業者数の推移
／出典：平成 22(2010)年工業統計調査結果速報(千葉市)

区分	H21	H22		対前年度 増減
			構成比	
食料品	7,584	7,226	35.4%	△ 358
食料・たばこ	115	109	0.5%	△ 6
繊維	226	189	0.9%	△ 37
木材・木製品	166	131	0.6%	△ 35
家具・装備品	68	66	0.3%	△ 2
パルプ・紙	184	186	0.9%	2
印刷	965	845	4.1%	△ 120
化学	406	422	2.1%	16
石油・石炭	30	19	0.1%	△ 11
プラスチック	447	466	2.3%	19
ゴム	102	96	0.5%	△ 6
なめし皮	5	5	0.0%	0
窯業・土石	411	404	2.0%	△ 7
鉄鋼	3,778	3,663	17.9%	△ 115
非鉄	499	466	2.3%	△ 33
金属製品	1,689	1,692	8.3%	3
汎用機械	263	236	1.2%	△ 27
生産用機械	1,978	2,295	11.2%	317
業務用機械	421	371	1.8%	△ 50
電子・デバイス	371	119	0.6%	△ 252
電気機械	371	383	1.9%	12
情報通信機械	392	407	2.0%	15
輸送用機械	245	171	0.8%	△ 74
その他	438	441	2.2%	3
合計	21,154	20,408	100.0%	△ 746

■市内事業者の操業意識

□千葉市の操業地としての魅力

市内企業を対象に行ったアンケート調査（実施時期：平成 21 年 11 月及び平成 22 年 8 月）で、事業環境としてどのような要素を重視するか聞いたところ、取引先・顧客の近さ、交通の便の良さ、都心への近さ等の優先順位が高く、その満足度は「十分ではないが、足りている」が最も多く、事業所所在地としてある程度の条件を満たしていることがわかります。

▼図表 16 事業環境として重視する要素とその満足度(回答数:229)

回答 選択肢	重視する 要素 (複数回答)	千葉市(全域)において足りているか				現在の事業所所在地において足りているか			
		十分で ある	十分では ないが、足り ている	不足して いる	無回答	十分で ある	十分では ないが、足り ている	不足して いる	無回答
取引先・顧客が近い	101 (44.1%)	13 (12.9%)	57 (56.4%)	28 (27.7%)	3 (3.0%)	19 (18.8%)	47 (46.5%)	26 (25.7%)	9 (8.9%)
交通の便が良い	45 (19.7%)	12 (26.7%)	24 (53.3%)	8 (17.8%)	1 (2.2%)	16 (35.6%)	22 (48.9%)	4 (8.9%)	3 (6.7%)
都心に近い	38 (16.6%)	6 (15.8%)	27 (71.1%)	4 (10.5%)	1 (2.6%)	8 (21.1%)	25 (65.8%)	3 (8.1%)	2 (5.3%)
人材が確保しやすい	20 (8.7%)	2 (10.0%)	9 (45.0%)	9 (45.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	9 (45.0%)	8 (40.0%)	1 (5.0%)
地元であるから 千葉市であるから	13 (5.7%)	2 (15.4%)	7 (53.8%)	4 (30.8%)	0 (0.0%)	5 (38.5%)	5 (38.5%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)
地価・賃料が安いから	13 (5.7%)	1 (7.7%)	6 (46.2%)	5 (38.5%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	8 (61.5%)	4 (30.8%)	0 (0.0%)
企業・同業者が多いから	10 (4.4%)	4 (40.0%)	3 (30.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	4 (40.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)
その他	159 (69.4%)	32 (20.1%)	65 (40.9%)	56 (35.2%)	6 (3.8%)	33 (20.8%)	60 (37.7%)	56 (35.2%)	10 (6.2%)

千葉市の操業地としての魅力について聞いたところ、交通アクセスの良さ、マーケット、人材、人脈をあげる企業が多く、利用価値の高い施設としても高速道路のインターチェンジや鉄道駅という回答が多く見られました。一方、課題としては仕事、取引先が少ない、人材の確保が難しい、交通アクセスが良くない、同業者が多い、競争が激しいという意見が多くみられました。

▼図表 17 事業環境としての千葉市の魅力
(自由回答)(回答数:155)

回 答	実 数	割 合
交通アクセスが良い	73	47.1%
マーケット	20	12.9%
人材、人脈	14	9.0%
官公庁、県庁、政令市	13	8.4%
都心に近い、遠くない	13	8.4%
なし	9	5.8%
地価、物件が割安	5	3.2%

▼図表 18 事業所周辺で利用価値の高い施設
(自由回答)(回答数:160)

回 答	実 数	割 合
高速 IC、一般道路網	115	71.9%
鉄道駅	45	28.1%
官公庁、公共施設	23	14.4%
モノレール	6	3.8%
大学、病院	6	3.8%
商業施設	5	3.1%
幕張メッセ	4	2.5%

▼図表 19 事業活動を行う上での千葉市の課題 (自由回答)(回答数:142)

回 答	実 数	割 合
仕事、取引先が少ない	52	36.6%
人材の確保が難しい	21	14.8%
道路状況、交通アクセス	18	12.7%
同業者が多い、競争が激しい	13	9.2%
景気低迷、企業の減少	11	7.7%
土地が高い、利用しづらい	9	6.3%
目立つ企業がない	6	4.2%
中心市街地、メッセの活用	5	3.5%

また、最大顧客の所在地、最大仕入先の所在地とも市内及び県内としている企業が多く、地域に根付いた事業活動を行っていることが分かります。

▼図表 20 最大顧客の所在地の状況

選択肢	回答数	割合
千葉市内	102	44.5%
千葉市外、千葉県内	67	29.3%
千葉県外	41	17.9%
海外	2	0.9%
無回答	17	7.4%
合計	229	100.0%

▼図表 21 最大仕入先の所在地の状況

選択肢	回答数	割合
千葉市内	91	39.7%
千葉市外、千葉県内	51	22.3%
千葉県外	70	30.6%
海外	2	0.9%
無回答	15	6.6%
合計	229	100.0%

□自社の「強み」と「弱み」

市内企業の強みは、「千葉市内に事業所があること」と「技術力」、弱みは「知的財産※の取得と活用」と「新事業分野への展開」、「人材育成」、「人材の確保」が挙げられています。このため、企業が望む支援は販路開拓（30%）、人材育成（22%）、補助金獲得支援（20%）、となっており、共同研究の支援や海外進出についての支援には関心が低いです。これらのアンケート結果からは、販路開拓、人材の育成・確保、補助金獲得支援、知的財産※の活用、新事業分野への展開に大きなニーズがあることが分かります。

▼図表 22 自社の「強み」と「弱み」 (回答数 229・複数回答)

選択肢	強み		弱み		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
千葉市内に事業所があることについて	183	79.9%	11	4.8%	35	15.3%
技術力(保有する製造・技術ノウハウ)	140	61.1%	51	22.3%	38	16.6%
財務力(資金繰り、自己資本)	116	50.7%	75	32.8%	38	16.6%
営業力(販売力、販路開拓力)	116	50.7%	76	33.2%	37	16.2%
人材確保	85	37.1%	108	47.2%	36	15.7%
マーケティング力(顧客、市場の開拓、ニーズの把握)	84	36.7%	103	45.0%	42	18.3%
情報収集力(市場・技術製品・競合他社情報の把握)	74	32.3%	101	44.1%	54	23.6%
人材育成(教育・研修)	71	31.0%	116	50.7%	42	18.3%
新事業分野への展開のしやすさ	42	18.3%	130	56.8%	57	24.9%
知的財産の取得と活用(特許・実用新案・意匠・商標等)	27	11.8%	139	60.7%	63	27.5%

▼図表 23 行政に望む支援機能（回答数 229・複数回答）

選択肢	回答数	割合
取引先と繋げる販路開拓機能	68	29.7%
社内人材の育成機能	51	22.3%
国等の補助金獲得支援機能	46	20.1%
同業種や異業種とのマッチング機能	43	18.8%
経営・技術的な専門知識の相談機能	42	18.3%
自社の技術・サービスの情報発信機能	38	16.6%
共同研究(大学・民間)を支援する機能	10	4.4%
海外への進出を支援する機能	10	4.4%
その他	9	3.9%
無回答	76	33.2%

□今後の事業展開

「現行事業を拡大したい」が最も多く、全回答者の 49.8%が回答しています。次いで、「現状を維持し、特に拡大はしない」、「新事業、新分野に着手したい」、「社会貢献できる事業を行っていききたい」となっています。

選択肢	回答数	割合
現行事業を拡大したい	114	49.8%
現状を維持し、特に拡大はしない	77	33.6%
新事業、新分野に着手したい	56	24.5%
社会貢献できる事業を行っていききたい	52	22.7%
事業縮小も視野に入れている	17	7.4%
その他	3	1.3%
無回答	5	2.2%

▲図表 24 今後の事業展開（回答数 229・複数回答）

□将来の操業地

「現在の場所で操業を継続する」という回答が最も多く、全体の 62.4%が回答しています。

▼図表 25 将来の操業地（回答数 229・複数回答）

選択肢	回答数	割合
現在の場所で、操業を継続する。	143	62.4%
現在の場所で操業を継続し、千葉市外の他の場所でも操業する。	31	13.5%
現在の場所で操業を継続し、千葉市内の他の場所でも操業する。	14	6.1%
千葉市内の他の場所に移転する。	10	4.4%
千葉市外の他の場所に移転する。	2	0.9%
その他	7	3.1%
無回答	22	9.6%

■千葉市の商業データ■

本市の商業については、卸売業・小売業を合わせた事業所数は政令市で最小ですが、年間商品販売額では 11 位となっています。関東圏で比較しても川崎市よりも多く、人口規模の大きいさいたま市の約 8 割となっています。このことから関東圏の他市と比較して、商圏が比較的大きく、近隣市からの誘引の度合いが大きいことが分かります。

小売業では美浜区や中央区を中心に売り上げを伸ばしており、幕張地区のアウトレットモール※や蘇我特定地区の再開発などの効果と考えられます。しかし花見川区、若葉区の販売額が低下しており、郊外にある商業機能の衰退が懸念されます。

▼図表 26 政令市商業統計／出典：平成19年商業統計調査（経済産業省）

	合計				卸売業				小売業			
	事業所数	順位	年間商品販売額 (百万円)	順位	事業所数	順位	年間商品販売額 (百万円)	順位	事業所数	順位	年間商品販売額 (百万円)	順位
千葉市	7,168	⑪	3,721,095	⑪	1,692	⑮	2,600,386	⑫	5,476	⑪	1,120,709	⑫
札幌市	16,323	⑦	8,799,871	⑤	5,551	⑥	6,666,363	⑤	10,772	⑦	2,133,509	④
仙台市	12,757	⑩	8,191,165	⑥	4,745	⑧	6,923,012	④	8,012	⑩	1,268,154	⑨
さいたま市	9,604	⑬	4,734,146	⑩	2,576	⑬	3,473,202	⑩	7,028	⑮	1,260,944	⑩
横浜市	26,032	③	9,788,249	④	5,634	⑤	6,068,839	⑦	20,398	②	3,719,410	②
川崎市	9,105	⑮	3,640,662	⑫	1,629	⑮	2,474,770	⑭	7,476	⑬	1,165,892	⑪
新潟市	10,759	⑪	3,571,967	⑬	2,905	⑪	2,631,003	⑪	7,854	⑪	940,963	⑭
静岡市	10,497	⑫	3,338,298	⑭	2,926	⑩	2,531,108	⑬	7,571	⑫	807,190	⑮
浜松市	9,455	⑭	2,904,445	⑮	2,374	⑭	1,966,792	⑮	7,081	⑭	937,653	⑮
名古屋市	32,612	②	30,257,325	②	12,853	②	27,065,625	②	19,759	③	3,191,700	③
京都市	22,560	④	5,569,026	⑨	5,726	④	3,555,281	⑨	16,834	④	2,013,745	⑤
大阪市	53,196	①	47,300,506	①	21,675	①	42,752,623	①	31,521	①	4,547,883	①
堺市	7,279	⑮	1,783,320	⑮	1,512	⑮	1,000,507	⑮	5,767	⑮	782,813	⑮
神戸市	19,232	⑥	5,861,796	⑧	4,625	⑨	4,065,394	⑧	14,607	⑤	1,796,402	⑦
広島市	13,872	⑧	7,696,680	⑦	4,746	⑦	6,343,512	⑥	9,126	⑨	1,353,169	⑧
北九州市	13,348	⑨	3,069,052	⑮	2,652	⑫	1,978,663	⑮	10,696	⑧	1,090,390	⑬
福岡市	20,440	⑤	13,912,548	③	7,286	③	12,005,359	③	13,154	⑥	1,907,189	⑥
政令市平均	17,308	—	9,655,303	—	5,359	—	7,888,379	—	11,949	—	1,766,924	—
参考：県内他市												
市川市	2,948	—	623,160	—	405	—	287,524	—	2,543	—	335,635	—
船橋市	3,828	—	1,161,083	—	773	—	599,681	—	3,055	—	561,402	—
柏市	2,824	—	893,424	—	626	—	426,286	—	2,198	—	467,138	—
松戸市	3,192	—	766,689	—	608	—	382,568	—	2,584	—	384,121	—

▼図表 27 千葉市内の商業の推移状況／出典：平成16年、19年商業統計調査（経済産業省）

	合計			卸売業計				小売業計		
	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)
H19										
千葉市	7,168	77,974	3,721,095	1,692	22,140	2,600,386	5,476	55,834	1,120,709	976,990
中央区	2,665	25,462	1,351,964	681	8,841	967,052	1,984	16,621	384,912	325,022
花見川区	959	8,877	242,680	221	1,768	116,178	738	7,109	126,503	102,167
稲毛区	1,066	10,577	385,400	215	2,313	249,193	851	8,264	136,207	138,926
若葉区	1,001	8,886	461,680	225	2,586	349,908	776	630	111,772	119,529
緑区	558	6,103	108,817	56	373	12,997	502	5,730	95,821	129,915
美浜区	919	18,069	1,170,554	294	6,259	905,059	625	11,810	265,495	161,431
H16										
千葉市	7,788	75,717	3,291,044	1,918	22,815	2,328,089	5,870	52,902	962,956	983,919
中央区	2,852	25,371	1,393,347	795	9,441	1,036,246	2,057	15,930	357,101	288,025
花見川区	1,050	9,308	247,673	240	2,206	128,061	810	7,102	119,612	104,066
稲毛区	1,176	10,964	344,129	254	2,608	217,061	922	8,356	126,940	166,259
若葉区	1,132	9,075	383,485	268	2,546	267,964	864	6,529	115,521	120,420
緑区	630	6,479	110,883	55	429	15,177	575	6,050	95,706	128,761
美浜区	948	14,520	811,527	306	5,585	663,451	642	8,935	148,076	176,388

▼図表 28 業種別商店数・従業者数・年間販売額(飲食店除く)(各年 6 月 1 日現在)
／出典 平成19年商業統計調査

	事業所数(所)			従業者数(人)			年間販売額(百万円)		
	H16	H19	前回比	H16	H19	前回比	H16	H19	前回比
卸売業	1,918	1,692	△11.8%	22,815	22,140	△3.0%	2,328,088	2,600,386	11.7%
小売業	5,870	5,476	△6.7%	52,902	55,834	5.5%	962,956	1,120,709	16.4%
計	7,788	7,168	△8.0%	75,717	77,974	3.0%	3,291,044	3,721,095	13.1%

▼図表 29 市内及び中心市街地での閉店状況(各年 6 月 1 日現在)
／出典 平成19年商業統計調査

年	千葉市内		中心市街地	
	小売業者数(商店数)	増減	小売業者数(商店数)	増減
H6	6,967	—	1,025	—
H9	6,603	△ 364	920	△ 105
H14	6,093	△ 510	825	△ 95
H16	5,870	△ 223	823	△ 2
H19	5,476	△ 394	820	△ 3

■商業の形態の変化と原因(供給) アンケート結果から

市民を対象に実施したインターネットモニター及び市内商店街、及び市内のモデル地区 7 箇所に住んでいる市民、市内のモデル地区 7 箇所の商店街へ来街した市民へのアンケートを行ないました。(実施時期：平成 22 年 8 月)

□インターネットモニター調査※からこれからの商店街はどうあってほしいか聞いたところ、「身近な買い物の場であってほしい」という回答に次いで、「日常生活をサポートする場になってほしい」という回答が多い結果となりました。

選択肢	回答数	割合
身近な買い物の場であってほしい	660	71.4%
日常生活をサポートする場になってほしい	421	45.6%
生鮮食料品店を充実してほしい	408	44.2%
暮らしやすいまちづくりを進める中心になってほしい	399	43.2%
イベントや行事の中心になってほしい	270	29.2%
飲食店を充実してほしい	205	22.2%
日用品店、衣料品店を充実してほしい	200	21.6%
営業時間を延長してほしい	199	21.5%
サービス・娯楽施設を充実してほしい	156	16.9%
NPOや学生が活動する場になってほしい	118	12.8%

▲図表 30 商店街にどうあって欲しいか(複数回答)回答数:924

また、商店街の新たな機能として、便利と思う生活支援サービスを聞いたところ、「一人でも使いやすい量で食品や消耗品を販売すること」がトップでしたが、他の項目に対する回答も多く、幅広いサービスが求められていることが分かりました。

選択肢	回答数	割合
一人でも使いやすい量で食品や消耗品を販売すること	465	50.3%
高齢者の交流施設の設置	355	38.4%
宅配サービス	332	35.9%
防犯パトロール等の安全対策	315	34.1%
買い物中、子どもを遊ばせられる場所の設置	303	32.8%
営業時間の延長	263	28.5%
託児所や寺子屋の設置	249	26.9%
買い物物品の一時預かり	169	18.3%

▲図表 31 商店街に期待する新たなサービス(複数回答)回答数:924

□商店街へのアンケート

商店街の売り上げについては回答のあった全 48 商店街中 44 商店街で「減少している」、来街者数については 40 商店街で「減少している」、という回答となりました。

▼図表 32 5 年前と比較した売上の変化 回答数:48

選択肢	回答数	割合
増加している	1	2.1%
変わらない	2	4.2%
減少している	44	91.7%
無回答	1	2.1%

▼図表 33 5 年前と比較した来街者数 回答数:48

選択肢	回答数	割合
増加している	1	2.1%
変わらない	6	12.5%
減少している	40	83.3%
無回答	1	2.1%

まず、「売上減少の要因」について聞いたところ、「景気低迷」が最も多く、次いで「経営者の高齢化・意欲減退」が多くなっており、続いて「周辺住民の高齢化・人口減少」「店舗・業種構成の不足」となっています。

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
景気低迷	20	45.5%	駐車場の不足	4	9.1%
経営者の高齢化・意欲減退	19	43.2%	商店街のハード整備不足	3	6.8%
周辺住民の高齢化・人口減少	14	31.8%	核テナントの撤退	3	6.8%
店舗・業種構成の不足	14	31.8%	行政の支援不足	2	4.5%
大型店やロードサイドショップの影響	13	29.5%	その他	0	0.0%
個店の経営努力不足	12	27.3%	無回答	7	15.9%
商店街のソフト事業不足	5	11.4%			

▲図表 34 売上減少の要因(複数回答)回答数:44

また、商店街で問題となる空き店舗の状況について聞いたところ、「空き店舗発生の要因」については、6割以上の商店街が「店主の病気・高齢化・後継者不在による廃業」と回答しています。さらに、4割以上の商店街が「消費者のニーズに対応しきれなかったことによる廃業」と回答していることから、消費者ニーズの差異があったことが伺えます。

選択肢	回答数	割合
店主の病気・高齢化・後継者不在による廃業	30	62.5%
消費者のニーズに対応しきれなかったことによる廃業	21	43.8%
周辺への大型店出店による廃業	18	37.5%
その他の理由による店舗移転	15	31.3%
好立地場所への店舗移転	7	14.6%
店舗の老朽化による店舗移転	7	14.6%
周辺への大型店出店による店舗移転	2	4.2%
その他	3	6.3%
無回答	4	8.3%

▲図表 35 空き店舗が発生した主な理由(複数回答)回答数:48

実際に、消費者アンケートでは、商店街で買えたら良い商品、サービスについて聞いたところ、9割近くが生鮮食品や総菜、生活サービス(クリーニングや郵便、荷物の発送)と回答したが、商店街へのアンケートで現在ある業態業種を聞いたところ、青果、精肉、鮮魚の生鮮食品は4割程度しかない結果となっています。

選択肢	回答数	割合
生鮮食品や総菜	644	89.2%
生活サービス(クリーニングや郵便、荷物の発送)	639	88.5%
生活を潤す商品(花、雑貨)	495	68.6%
日用品(洗剤などの消耗品)	484	67.0%
生活を潤すサービス(マッサージ、美容院)	465	64.4%
買い置き食品(調味料、レトルト)	460	63.7%
買い置き商品(お菓子、ジュース)	459	63.6%
平日の昼または夜の飲食	423	58.6%
嗜好品(酒、たばこ)	359	49.7%
休日の飲食	291	40.3%
子どもや孫のためのもの(おもちゃ、本、お菓子)	264	36.6%
ファッション関係(服や靴、バッグ)	193	26.7%

▲図表 36 商店街で買えたら良い商品サービス(複数回答)回答数:722

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
理容・美容	40	83.3%	中小スーパー	16	33.3%
飲食店	38	79.2%	その他サービス	13	27.1%
衣料品	28	58.3%	精肉	13	27.1%
金融機関	27	56.3%	家具・家電	13	27.1%
コンビニエンスストア	26	54.2%	娯楽サービス	10	20.8%
日用品雑貨	23	47.9%	ディスカウントストア	10	20.8%
その他食料品	20	41.7%	100円ショップ	8	16.7%
その他小売	20	41.7%	大型スーパー・百貨店	6	12.5%
青果	20	41.7%	大型専門店	6	12.5%
鮮魚	16	33.3%			

▲図表 37 商店街に現在ある業態・業種(複数回答)回答数:48

これらのことから、経営者の高齢化等による廃業が増えたことが、店舗・業種構成の不足につながり、景気低迷や周辺人口の減少・高齢化の影響を受けて、商店街の売り上げや来場者数の減少につながったことが考えられます。

■ その他の参考データ ■

■ 政令市の人口

▼ 図表 38 各政令市の人口／出典：平成 22 年国勢調査（総務省）（人）

千葉市	961,749
札幌市	1,913,545
仙台市	1,045,986
さいたま市	1,222,434
横浜市	3,688,773
川崎市	1,425,512
相模原市	717,544
新潟市	811,901
静岡市	716,197
浜松市	800,866
名古屋市	2,263,894
京都市	1,474,015
大阪市	2,665,314
堺市	841,966
神戸市	1,544,200
広島市	1,173,843
岡山市	709,584
北九州市	976,846
福岡市	1,463,743

■ 千葉市と首都圏一都三県（東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県）の人口動態

▼ 図表 39 千葉市と首都圏一都三県の年齢区分別人口動態／出典：平成 17 年、平成 22 年国勢調査（総務省）

		0-14 歳人口	15-64 歳人口	65 歳以上人口	その他年齢不詳	合計
H17	千葉市	127,608 13.8%	639,711 69.2%	152,231 16.5%	4,769	924,319
	首都圏一都三県	4,415,007 12.8%	23,830,586 69.1%	5,993,138 17.4%	240,172	34,478,903
H22	千葉市	123,972 12.9%	606,496 63.1%	198,850 20.7%	32,431	961,749
	首都圏一都三県	4,418,428 12.4%	23,597,250 66.2%	7,246,714 20.3%	356,172	35,618,564
H17-H22 の増減 と割合	千葉市	△3,636 △2.8%	△33,215 △5.2%	+46,619 +30.6%	+27,662	+37,430 +4.0%
	首都圏一都三県	+3,421 +0.1%	△233,336 △1.0%	+1,253,576 +20.9%	+116,000	+1,139,661 +3.3%

▼ 図表 40 高齢化予測の状況／出典：国立社会保障・人口問題研究所 2007 年 5 月予測

		0-14 歳 人口	15-64 歳 人口	65 歳 以上人口	【参考】75 歳以上 人口	合計
H17	千葉市	128,257 13.9%	643,002 69.6%	153,059 16.6%	55,670 6.2%	924,318
	首都圏一都三県	4,444,452 12.9%	23,999,233 69.6%	6,035,218 17.5%	2,520,961 7.3%	34,478,903
H22	千葉市	127,910 13.4%	624,072 65.6%	199,064 20.9%	78,536 8.3%	951,046
	首都圏一都三県	4,298,430 12.3%	23,414,759 66.8%	7,345,376 21.0%	3,286,066 9.4%	35,058,565
H27	千葉市	118,219 12.3%	601,256 62.4%	243,758 25.3%	107,264 11.1%	963,233
	首都圏一都三県	3,940,882 11.2%	22,528,643 64.0%	8,728,427 24.8%	4,114,588 11.7%	35,197,952
H32	千葉市	105,713 11.0%	593,580 61.5%	265,517 27.5%	139,074 14.4%	964,810
	首都圏一都三県	3,521,596 10.1%	22,115,947 63.1%	9,391,449 26.8%	5,025,197 14.3%	35,028,992
H17-H32 の 増減と割合	千葉市	△22,544 △17.6%	△49,422 △7.7%	+112,458 +73.5%	+83,404 +149.8%	+40,492 +4.4%
	首都圏一都三県	△922,856 △20.8%	△1,883,286 △7.8%	+3,356,231 +55.6%	+2,504,236 +99.3%	+550,089 +1.5%

【注意】2010 年以降の数字は 2007 年時点の推計値であるため、4 頁掲載の人口推計と異なる。

